

電気自動車運転のアドバイス

従来の車両とは異なり、電気自動車が走行を続けると電力消費率は低下します。高速道路での運転または平均车速の高い運転を続けた場合、走行できる距離が短くなる可能性があります。駆動用電池の残量が低下しているときは、表示された走行可能距離に頼りすぎたり、高速道路を運転したりしないでください。適度な车速で走行すると、電力消費を抑えることができます。経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

シフトポジションの操作

- 信号待ちや渋滞のときなどは、シフトポジションをDにしましょう。
- 駐車するときは、シフトポジションをPにしましょう。
- シフトポジションをNにしても、電費向上の効果はありません。Nでは、駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

エコドライブモード／レンジモードの利用

■ エコドライブモード

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆる

やかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、電費の向上につながります。（→P.448）

■ レンジモード

レンジモードを使用すると、電費を向上させる走行制御（車速制限／最大駆動力制限／前後駆動力配分最適化など）にかわり、エアコン（暖房／冷房）をOFFにします。レンジモードでクルーズコントロールまたはレーダークルーズコントロールが作動したときは、車速の上限が100km/hになるため、設定速度にならない場合があります。レンジモードでは航続可能距離の最大化につながります。＊（→P.448）

＊ Mモード（→P.269）選択時は、レンジモードを使用しても、車速制限／最大駆動力制限機能は無効化されます。

渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは電費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分な電気消費を抑えることができます。

減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょ。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょ。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

エアコンの ON / OFF

- 必要時以外はエアコンスイッチをOFFにしましょ。余分な電力消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょ。エアコンへの負荷が減り、電費向上につながります。

冬季：過剰または不要な暖房は避けましょ。ヒーターを使いすぎないことも電費向上に効果的です。

- レクサスクライメイトコンシェルジュを使用すると、空調が自動的に快適な状態に制御され、余分な電力消費を抑えることができます。（→P.468）

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょ。タイヤ空気圧が適切でないとき、電費悪化につながります。また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では電力消費量が大きくなります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょ。

荷物

重い荷物が積まれているとき、電費が

悪化します。不要な荷物は、積んだままにせず降ろしましょう。

走行可能距離について

マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行可能距離は、現在どのくらい走行が可能かの目安を示しており、表示の距離を実際に走行できない場合があります。

表示値について

マルチインフォメーションディスプレイには、駆動用電池の残量や状態から十分な走行性能が出せる値を推定して表示しています。(→P.171) 低温時には、駆動用電池残量が残っていても、走行距離がなくなる場合があります。早めに充電してください。

走行できる距離を伸ばすためのヒント

走行できる距離は、運転のしかた・道路状況・天候や気温・電装品の使用状況・乗員数などに大きく左右されます。

次のことに気を付けて運転していただくと、より走行できる距離を伸ばすことが可能です。

- 車間距離を十分にとり、不要な加減速をしない
- むだな加減速をくり返さない
- 走行中は、一定の速度で走行することを心がける
- エアコンを適切に使用し、過剰または不要な冷房・暖房は避ける
- 指定されたサイズのタイヤを使用

し、タイヤの空気圧を適正に維持
する

- 不要な荷物を積まないように心がける